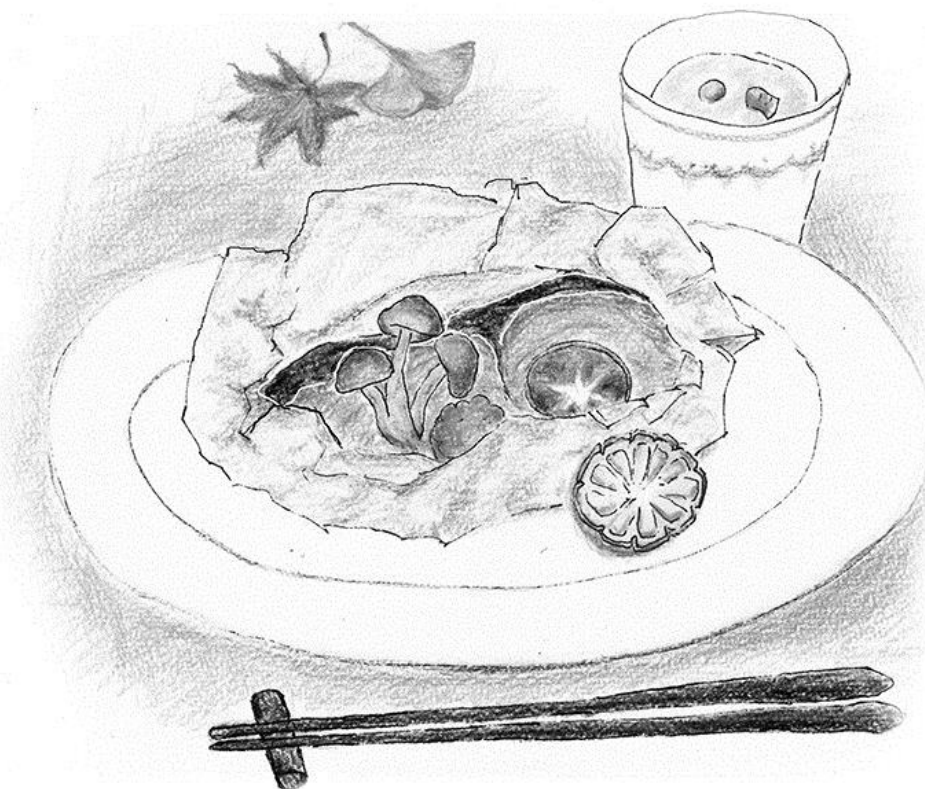


こらぼよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
~しようよ の組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第38号 2016・秋



目次

- 『ガラスの天井』時代は動かせる
- 配偶者控除と働く女性の壁
- セミナー報告
お家の中を楽しく整理！自分の空間・家族の空間
- LGBTを知っていますか
- 女性に対する暴力をなくす運動
- 出前講座案内
- 職員紹介
- 図書紹介

平成28年度 男女共同参画に関する市民企画講座募集

日頃考えている思い
をカタチにしたい！！



実施してみたい！！

よい企画を持っている！！

募集締め切り：11月30日 詳しくは、三木市男女共同参画センターまでお問い合わせください。
男女共同参画の実現に向けた内容の講座。三木市内を拠点としているグループが実施。センターが講座の実施を支援します。

『ガラスの天井』 ～時代は動かせる～

女性活躍推進がうたわれる中、ヒラリー・クリントンさん、小池百合子さん、蓮舂さんのスピーチで「ガラスの天井（glass ceiling）」という言葉がありました。



「ガラスの天井」というのは、※①ウィキペディアによると「資質又は成果にかかわらず、マイノリティ及び女性の組織内での昇進を妨げる見えないが打ち破れない障壁である。当初は、女性のキャリアを阻む障壁の※②メタファーであったが、現在は男女を問わずマイノリティの地位向上を阻む壁としても用いられるようになった。」とあります。

ヒラリー・クリントンさんの「女性初」は叶いませんでした。この3人の女性がここまで来る道のりは冷たい向かい風の中を立ち向かう険しいものであったと思います。その険しさを乗り越えた強さが女性でも男性でもない性別を越えた政治家になり、向かい風を追い風に変わっていきとしています。

私たちの周りにもガラスの天井のようなガラスの壁もあるように思います。職場や自治会など、役職を性別で決める壁。人種の壁。地域の壁。健常者・障がい者の壁など…。どうしようもない障壁があります。

しかし、時代を振り返ると確実に変わっています。学校の名簿は男女別から混合名簿になり、男子は技術、女子は家庭科だったのが男女一緒に家庭科や技術を学習しています。男性の職種に女性が、女性の職種に男性がいます。女性の管理職も増えてきました。ここに至るまでたくさんの人が声をあげ、高く厚い障壁を叩き続けてきたからこそ、今があるのだと思います。

時代も制度も簡単には変わりません。変わらなくても声をあげ続ければわすかでも動かすことはできます。時代を嘆くより、ガラスの天井や壁を叩きつけて、障壁を扉に変えていきましょう。

※①ウィキペディア=インターネット上のオンライン百科事典。

※②メタファー=暗喩。あらゆる表現のなかで使われる「たとえ」の技法。



配偶者控除と働く女性の壁

配偶者控除は、いわゆる「内助の功」に配慮し、専業主婦や夫の扶養内で働く妻を優遇する仕組みです。現在、政府税制調査会で議論がされており、配偶者控除の年収103万からの引上げ、夫婦控除への転換、所得の高い世帯を対象から外すなどの案が11月中旬に提言されるようです。

この配偶者控除ができた1961年から50年以上がたち、共働き世帯が大きく増えた現在、妻の年収を抑えようとする現行制度は、「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担を固定化し、政府の進める「女性の活躍」に逆行しているといえます。

この制度だけではなく、妻が年収103万円を超える※③と、夫の会社が配偶者手当をカットしたり、130万以上になると、妻に健康保険や年金の保険料支払いが発生し、世帯の手取り額は減ることになることも、女性の働く意欲を妨げ、社会的損失になっています。そもそも働く女性が増えたとはいえ、多くは非正規雇用の社員です。正社員でも、結婚や出産、介護など女性に多くの負担がかかれば働き続けることは難しく、一旦退職すると、復帰しても非正規で働かざるを得ない場合が多いのが現状です。

けれども、改正パート労働法や女性活躍推進法の成立、事業主への育児や介護等の両立支援助成金を支給するなど、徐々に女性が働きやすい社会になってきています。これからも、政策決定の場に女性をもっと増やし、育児や介護の社会化を進め、家庭でも男女が共同参画意識を高めるように、声をあげ働きかけていくことが大切でしょう。

※③501人以上の従業員のいる企業では、勤務期間1年以上週20時間以上労働、月収88,000円以上

セミナー報告

お家の中を、楽しく整理！ ～自分の空間・家族の空間～

講師：魚林 佐起子さん（整理収納アドバイザー）10/26



三木南交流センターに於いて、年代も様々な、大変多くの参加者で行われました。「年末はご主人も参加して大掃除をしますね。我が家を整理するのは、その時を控えた今が（10～11月）一番いい時期です。」との事でした。

「物は勝手に家に入ってきません。安い！お得！で、まだあるのに、余分には買わない。まずは、入ってくるところから気を付ける事で、家に溜まる物が減ります。

そのうえで、今あるものを整理収納する手順は

- ① 物を減らす・・・今、自分にとって必要かどうか
- ② わける・・・好きか嫌いか
- ③ 収める・・・自分らしく暮らすためにはどこに置けばいいか

※いずれの行程も何となくはダメですよとのご注意がありました。

次に、この年末に掃除、片付けをしたい場所を書き出して計画を立てるとスムーズにできます。」とのこと。

魚林さんは「近くのスーパーは、私の倉庫。自分の家はスッキリ、必要な時はいつでも買えるし、届けてもくれる。入るは易し 出るは難しです。」という考えで生活されています。簡単なようでなかなか実行は難しいと思います。

「今は不要になったからといっても、廃棄そのものが難しい時代です。やむを得ない事情で家財を処分しないといけなくなった時も、かなりの高額費用がかかります。日頃から気を付ける事で、家から気持ちよく物を出すことが出来ます。リサイクルやリメイクは誰かのためになる出し方です。

整理収納とは、捨てることではなく、残すことを目的とします。必要なものを選ぶ、今の幸せのために生きることにつながります。」とのお話でした。

終わった時に会場のあちこちからため息に似たつぶやきが聞こえた気がしました。「分かってはいるんやけどなあ・・・」私も同感でした。でも、スッキリした空間で生活したいので何か一つでも頑張ろうと思いました。

「LGBT」を知っていますか

聞いたことがあるけれど、よくわからないという人が多いと思います。

LGBT は、4つの言葉の頭文字をとって並べた言葉です。

L は レズビアン 女性を好きになる女性

G は ゲイ 男性を好きになる男性

B は バイセクシャル 好きになる性を選ばない人

T は トランスジェンダー 生まれた時の性別に違和感を持ち、異なる性別で生きたいと思う人

日本では、人口の7.6%、13人に1人がLGBTを含む性的少数者とされています。（電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT 調査2015」より）

国連では、性的指向（好きになる性）と性自認（自分で男だ、女だと思う性）の多様性を認め、その差別は人権問題であるとしています。日本では、職員の研修を行ったり、相談の窓口を設けたり、条例が制定されるなどの対策を実施している自治体もあります。

私たちは自分がどんな性であるか、そしてどんな人を大切に思うかは、人それぞれに違います。同性を好きになったり、異性を好きになったり、人により様々なかたちがあります。すべての人が自分らしく力を発揮し、生き生きと暮らすことができる社会を作っていきましょう。



参画セミナー（出前講座）

とも 男女に学ぼう防災

とき：平成 29 年 1 月 31 日（火）10:00～11:45

ところ：まなびの郷みずほ

講師：斉藤 容子さん

（人と未来防災センターリサーチフェロー）

ひと ひと 男と女・笑顔と笑顔

・楽しく考える男女共同参画

とき：平成 29 年 2 月 21 日（火）13:30～15:00

ところ：中央公民館

講師：林家 花丸さん（落語家）

女性に対する暴力をなくす運動

（11 月 12 日～25 日）



配偶者や恋人からの暴力は犯罪です
一人で悩まないで、まずはお電話を

三木市 DV 相談室

（電話・面接）

0794-82-8300

月曜～土曜 9:00～17:00

秘密は固く守られます

安心してご相談ください



「男女共同参画社会」を推進するためには、「男の心とは…」 「女の心とは…」という固定観念を見直していかなければなりません。男女共同参画センターでは、各種セミナーを通じ、様々な啓発活動を行っています。ぜひ、ご参加ください。

奥倉 課長

講座など色々企画していきたい
と思いますので、ぜひ足をお運びください。



谷本 さん



こらぼーよの図書コーナーには
様々な本があります。
ぜひお越しください。
ぜひお越しください。

こらぼーよ図書紹介

『ふたりのママから、きみたちへ』

東 小雪・増原 裕子著 イーストプレス 2013年



子どもの頃、同性を好きなことに気づき、悩み、傷つき、苦しんだふたりの著者は、大人になり同性のカップルとして、結婚式を挙げ、一緒に暮らしています。自分たちの未来の子どもと、LGBTで悩む若者に向けて、多様な社会への一歩となればと、ふたりの関係性を丁寧に、優しく説明されています。

『お父さん、怒鳴らないで 殴られるより苦しいよ』

毎日新聞生活家庭部編 径書房 2003年



たくさんの人たちが「怒鳴らないで」と新聞に投稿しました。「怒鳴られること」に耐え、心が委縮している人たちは皆「怒鳴られることは嫌で大変傷つきます。やめてください」と訴えています。大切な家族に対して、怒鳴って嬉しいですか？傷つけていることを自覚していますか？「怒鳴ること」は暴力と同じくらい恐怖を与えるということが分かる一冊になっています。

三木市男女共同参画センター

愛称 こらぼーよ

三木市福井 1933-12

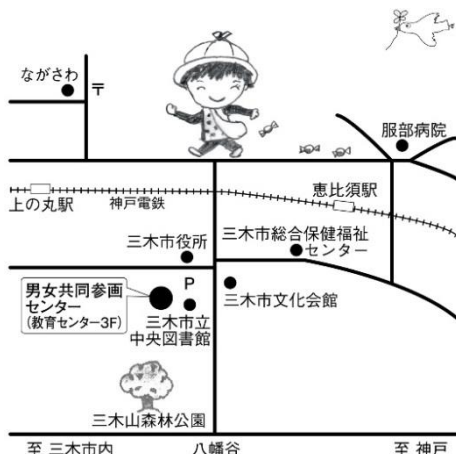
三木市立教育センター3階

（三木市立中央図書館横）

TEL&FAX 0794-89-2331

開館時間 9:00～17:00

休館日 土・日・祝日・年末年始



* 編集後記 *

11/25 女性に対する暴力撤廃の国際デー、12/10 人権デー、さまざまな啓発行事が三木市で行われます。これは国連が世界に呼びかけています。DV、いじめ、いろんなハラスメント…根っこは『人権』。今だけでも少し考えて少し優しくなれるといいですね。（HIRO）

